

佐藤訪米を断固阻止せよ

13日から5日間の大激闘に総決起しよう

革命的共産主義者同盟
マルクス主義学生同盟中核派
マルクス主義青年労働者同盟
マルクス主義高校生同盟

水爆B52は佐藤訪米の本質を示す

沖縄のB52は、今日もベトナムの人殺しに飛びたっている。おまけに、そのB52は一方では水爆をつんで極東一帯をパトロールしていることが暴露された。東京の横田・立川基地も、そこへ運びこまれるジェット燃料も、いや国中の基地、自衛隊、防衛産業が、米軍と一体となって、ベトナム侵略、アジア侵略に動員されている。こんなことを認めていられる者は人間ではない。

ところが佐藤政権は、この安保体制を強化するためにニクソンを訪れようとしている。その中心問題は、沖縄の核・水爆を容認し、沖縄からの米軍の自由出撃を公然と認め、沖縄を日米共同の侵略基地とすることだ。「七二年沖縄返還」という空手形は、七二年までに、こうした安保強化を民衆に呑ませてしまうための方便である。

われわれ民衆から搾りとりつて肥え太った独占資本は、いまや太りすぎて、そのハゲぐちをアジアへの経済侵略に求めている。しかしアジア支配の中心基地たる沖縄では反戦反安保、本土復帰の闘いが火をふき、本土の大闘争と呼応しあっている。アメリカのアジア支配も日米安保体制も、このままでは、とうてい維持できなくなった。だから佐藤政府は、ニクソン政権と共謀して、なんとか沖縄の闘いをおさえつけ、安保体制を大改悪して、乗りきろうと必死なのだ。それに抵抗する民衆は、ことごとく機動隊の暴力でおしつぶそうとしているのだ。

安保強化・侵略と暗黒の抑制を倒せ

だがわれわれは、こんな侵略戦争と暗黒政治の道はまっぴらだ。こんなことをしなければ生きていけないと佐藤が言うなら、民衆が生きるためには、そんな体制は死なねばならない。民衆には、そんな抑制を打倒する権利がある。

佐藤訪米を阻止するか否かは、われわれの死活をかけた闘いだ。日本とアジアの命運をかけた闘いだ。佐藤訪米を断じて阻止し、佐藤内閣を倒せ！安保を粉砕し、日本帝国主義を倒せ！沖縄を奪還せよ！沖縄県民もはつきり要求しているように、沖縄の本土復帰は、基地撤去・安保粉砕と不可分だ！

暴力機動隊を民衆の力で撃滅せよ

佐藤訪米阻止のために、われわれは10・21に決起した。それを恐れた佐藤政府と警視庁は、全国全共闘や反戦青年委員会のいっさいの集会デモを禁止し、三万の武装警官を配置して東京中を「ロック・アウト」の戒厳状態にした。だが10・21闘争は、この暴圧を突破して闘いとられた。

今度こそ本番だ。民衆の力を思い知らせてやろうではないか。たかが三万やそこらの機動隊など、民衆の総決起のまえにはもの数ではない。民衆の敵・機動隊の暴力には、民衆はどんな暴力手段を使ってもかまわない。石だろうが、棒だろうが、ガソリンだろうが、手に入るものいっさいを武器として、機動隊を撃滅し、佐藤政府の野望をたたきつぶすときがきたのだ。

佐藤の出發予定日は十七日だ。そのまえの十三日には総評もストにたち、全共闘、反戦委は首都制圧闘争にたつ。この十三日を大爆発点に、五日連続の大激闘をもつて、佐藤訪米をまつたく不可能とさせるような驚天動地の闘いをかちとろうではないか。

われわれ四団体は、この歴史的行動の最先頭にたち、いかなる犠牲もおそれず闘いぬくことを宣言し、すべての心ある労働者、農民、学生、高校生、市民の皆さんの断固たる決起をよびかける。

佐藤訪米阻止
二月共闘勝利
中核派大政治集会

11月5日(水)午後5時 三鷹公会堂 (三鷹市日比谷から
⑤で下瀬橋下車)

全国全共闘総決起集会

11月6日(木)午後3時 日比谷野外音楽堂